

あわゆず ふれず

第25号 2012年5月7日発行

伝えよう日本語を
広げよう徳島から



J T M と く し ま
日 本 語 ネットワーク

官の力、民の力、そしてもうひとつの力

「おめでとう!」「よかったですね!」約1年前の2011年4月23日年次総会当日、会場ではそんな言葉があらこちらで交わされていました。

その約2か月前に文化庁委託事業「平成23年度『生活者としての外国人』のための日本語教育事業」に応募をし、採択結果を待ちこがれていた総会前日の4月22日の午後、採択通知が届いたのです。すでに準備が整っていた予算書などの資料は大慌てで差し替えることになりましたが、こんなに嬉々としながら資料を差し替えをしたことは過去を振り返ってもそう多くはありません。

思えば、県から公募の情報をいただき、後先考えずに即「応募しましょう!」と兼松会長に申し出たとき、会長はすでにその意を固めていたことを知り、前進することに間違いはないとの思いを強くしました。そして他のメンバーも、それまでの年間予算の何倍にもなるであろう、ある意味経験したことのない大きい事業にも誰一人後ろ向きになることなく、私たちの日頃の活動がこの事業でどうすれば有効に生かせるか、2週間ほどの間に何度も会議を重ね、互いに真剣に話し合いました。そしてそれが、昨年度の「外国にルーツを持つ子どもたちの日本語指導者養成セミナー」の開催と、月1回だった「にほんご寺子屋」を「親子にほんご寺子屋」として週1回に拡大し、保護者の教室も一部併設して開催させることに結びついたのです。そしてそれは我々の実績として認められ、県の補助事業として、それまでとてつもなく高く感じていた学校の敷居を越え、学校の中で取り出し授業をするという活動にまで発展したのです。

実際に事業を始めてからも、常に、事業の実施そのものが目的ではなく、その先にある「外国の方々とともにいきいきと過ごせる社会を築く」という事を目的に日々活動してきました。その目的があればこそ、メンバー達はぶれることなく、最善の方法を模索しながら、ともに歩んでいくことができたのだと思います。そして私は、その目的への歩みが私たちに強い「何か」をもたらしてくれたと感じています。

社会貢献活動と呼ばれるものを行うとき、民だけでは限界があり、官だけでは人の確保が難しく、官民両方の力が合わさることで活動が活性化するのは、言わずと知れたことです。しかしそこには、「官・民」だけではなく、もうひとつの「何か」が強く影響しています。同じ目的を持って関わった人すべての「何か」、そう、「絆」です。

2011年3月11日、それ以前とそれ以降で、日本は大きく変わりました。「絆」が持つ力もこの日を境に大きく変わったと言います。そして私自身も、今回の事業をとおして、目的を同じくする人達の「絆」が持つ力がいかに大きいものかを強く感じました。

年度末、文化庁への報告書を作成するにあたり、「親子にほんご寺子屋」の担当講師が作成した46回分の指導記録簿にもう一度目を通してみました。そこには、ときには疑問を投げかけ、ときには厳しく自己を振り返り、ときには子どもたちの成長の様子をわが子のことのように喜び、そしてそういったことすべてを他のスタッフと共有し、この教室を彼らにとって有意義なものにしていきたいという思いがあふれていました。困ったことがあれば、メンバー同士真剣に話し合います。納得いかないことがあれば、真剣に向き合います。うれしいことがあれば肩をたたき合って喜びます。

そして、それはメンバーだけにとどまらず、寺子屋に通ってくる子どもたちやその保護者、日本語講座の受講生、行政や学校関係者、地域の方、そしてJ T M を応援して下さる全ての方々にも通じるものです。同じ目的に向かって歩む仲間達には強い「絆」が生まれ、そしてその「絆」は個々の力をぶれない強い力にしてくれるのです。

私には心の中でずっと大切にしている言葉があります。私に日本語教師の魅力を教えてくれた恩師の言葉です。「幸せとは、誰かの役に立つこと、誰かに喜んでもらえること」。私たちの活動は、この幸せを証明するものでもあると信じています。これからも私は、仲間とともに、ときにはぶつかり、ときには憤り、ときには喜び合い、今ある絆を大切に守りながら活動していきたいと思えます。「外国の方々とともにいきいきと過ごせる社会を築く」ために。そしてそこから幸せを享受するために。
(辻 暁子)

平成
23年度

徳島県「帰国・外国人児童生徒支援事業」

外国にルーツを持つ子どもたちが豊かな社会・学校生活が送れるような環境を整備することを目的とし、徳島県教育委員会学校政策課の補助事業として標記事業を実施しました。支援要請を受けて学校に日本語指導講師を派遣し、中学生1名、小学生12名、幼稚園児2名に取り出し授業を行いました。(兼松 文子)



取り出し授業をして思うこと

幼稚園年長 5歳 女子 フィリピン

初日、幼稚園に行くと、先生主導でみんな一緒に折り紙をしていました。日本語がまったく分からない彼女は、みんながするのをじっと見てまねをしていましたが、少しでもまごつくと周りの子どもたちが、いろいろ言いながら世話をしてくれます。彼女はされるがままにただ無表情で自分の折り紙を見つめていたのを覚えています。

しかし、日本語指導の回を重ねるごとに、笑顔がふえ、友達と簡単な意志の疎通が言葉でできるようになりました。自分の話す日本語が通じると私のほうを見てほほえんでくれます。彼女のその笑顔が、私に日本語教師でいることの幸せを感じさせてくれました。(玉置 房)

小学校4年生 男子・5年生 女子 アメリカ

小学校4年生のE君、5年生のKちゃん姉弟を加村さん(木曜)と私(月曜)の二人で2学期の間のみ担当しました。ふたりともとてもまじめで熱心なお子さんで、日本語を学ぼうという気持ちや、仲間の中に入っていきたいという気持ちにあふれていて課外活動にもがんばっていました。そんな場合、むしろ「がんばり過ぎ」という状態になることを心配しました。

指導は学校生活での用語や挨拶から始め、しだいに日常生活に関する用語へと移っていきました。言葉の学習だけでなく、できれば生活面や心理的なサポートもあるのが理想的だと思います。(森井 哲也)

小学校5年生 男子 中国

去年6月に来日。日本語が全然わからず、JTMの「親子にほんご寺子屋(子ども教室)」でひらがな・カタカナから勉強を始めた。9月初めから小学校に出向き、取り出し授業を行った。主に学校で使う言葉や短文の読み書きなどを指導した。K君はいつもニコニコしているが、よく聞いてみると、英語と算数は好きだが、社会や理科の授業はほとんどわからないと言っていた。幸い「にほんご寺子屋」に続けて参加できるので、今後は教科学習にも取り組んで、学校の勉強についていける日本語の力をつけることが大事だと思っている。

12月9日に報道機関の取材があった。K君が一人でインタビューを受けたが、記者の質問をちゃんと聞き取って、多少ぎこちないところはあったが落ち着いて応答していた。このようなK君を見て、順調に日本語を身につけていると感じ、安堵し、うれしくもあった。(村松 幸子)

小学校5年生 女子 フィリピン

こんなことがありました！日本のアニメの話題を出したところ、フィリピンにいるときに見たお気に入りのアニメのストーリーを話してくれた。きちんと筋道を立てて、ときには登場人物になりきってせりふを交えながら、感情豊かに話してくれた。難しい人間関係を描いたアニメだったが、わかりやすくおもしろかった。「見てみたい！」と思わせてくれるような話しぶりだった。自分のことばでしっかりと表現し、伝えてくれたところに成長を感じたし、彼女の中には伝えたいことがたくさんあるんだろうなと思った。(加村 匡子)

小学校5年生 女子 フィリピン

日常会話と漢字の指導をした。担任の先生とはほぼ毎回情報交換や相談をしながら、指導内容を考えていった。45分という限られた時間での学習だったので、漢字については、基本的には宿題にして自主学習としたが、児童自ら積極的に宿題を欲しがり、よく覚えてきた。漢字の定着を確認するために、漢字かるたや漢字すごろくをした。すごろくは楽しかったようで盛り上がり、自分でもすごろくを作ってきた。最初人見知りでまったくしゃべらなかった児童が徐々に打ち解け、最後にはたくさん会話をするようになった。取出し授業は日本語学習以外にも児童が自分を出せる場所としての役割もあると感じた。(古山 陽子)

小学校6年生 男子 中国

中国からやってきた12歳の少年に出会ったのは彼が来日してから6ヶ月あまりたった9月のことでした。しっかりした我を持った彼は、最初は警戒心いっぱい私を見つめていました。でも、それは自分の言いたいことが相手に伝わらない、また相手の言うこともわからないそんな状態にいるときの堅い殻のようなものでした。12月に入った頃からは、お父さんのお店の料理はおいしいこと、その店がどこにあるのかなど自分の伝えたい事柄をたどたどしくはあっても、日本語で話してくれるようになりました。なるほど言葉は、自分の伝えたいことを相手に伝達できる大事なツールだと思ったことでした。(長町 順子)

中学校1年生 女子 タイ

昨年の4月初め、中学校での初顔合わせ。子供の顔を見るなり、「どっかであった子だ」と直感した。タイであったのだろうか？……名前を聞くなり思い出した。Aさんだ。確か5年前に沖洲小学校3年生であった。私はその学校の校長。4年間は日本語の勉強をしていなかったの、4年生の国語の教科書をもとに日本語支援を始めた。1ヶ月目は週3回、2ヶ月目は週2回、3ヶ月目は週1回。それに、毎週の「親子にほんご寺子屋(子ども教室)」に参加。彼女も真面目に必死に勉強した。成績もずいぶん向上していった。この3月にタイの学校へ帰った。私は彼女にとっては幸せな事だと思う。私もタイを再訪するので、再会を楽しみにしている。(真鍋 憲昭)

県教委主催「あわ(OUR)教育発表会」にブースを出展しました

平成24年1月5日、県教育会館において学校関係者約600人が一堂に会し、「未来にはばたく力をはぐくむ教育の実現」をテーマに、県内の31の公立学校が自校・園の創意工夫を活かした特色ある教育活動についてポスターセッションを行った「あわ(OUR)教育発表会」が開催され、私たちJTMとくしまは4月に統合新設される4つの高校や県国際交流協会など、7つの団体とともにブースを出展しました。これは、徳島県「帰国・外国人児童生徒支援事業」やJTMとくしまの活動を広く学校関係者の方々に知っていただくことを目的に、県教委学校政策課より要請があったことから実現したものです。

ブースには、3学期から日本語指導講師を派遣する予定の学校や、新年度に外国籍の子どもが進学してくる予定の学校、以前外国籍の子どもが在籍していた学校の先生方はじめ、関心をお持ちの方々がお越しくださいました。先生方とのお話の中で、子どもたちは言語も人格形成も発達途上であるため、適切な支援がなされないと言語発達はもとより人格の形成にも影響を与えるということや、精神的なケアも支援者の大切な役割であることなど、日本語支援の必要性についてお伝えすることができました。

ブースを訪れた方が日本語教材を手にとったり、パネルに興味深そうに見入ったりしている様子に、一人でも多くの方に外国にルーツを持つ子どもたちの日本語指導について知っていただく機会を得たことを嬉しく思いました。それとともに、困っている子どもたちを目の前にして、何とかしなければと思う学校現場の先生方と私たちの気持ちがつながり、一つになっていく手応えをいっそう強く感じる事ができた一日となりました。(兼松 文子)



2011年度 第2回特別研修会

「初級から中級へ『みんなの日本語中級Ⅰ』を使って」

日時 ● 2012年1月28日(土) 13:30~17:00

場所 ● 徳島県国際交流プラザ(トピア)大会議室



講師 牧野 昭子 先生

海外技術者研修協会関西研修センター日本語教師。国際交流基金関西国際センター非常勤日本語教師

「みんなの日本語初級1・2」「みんなの日本語中級1」
「みんなの日本語初級・中級教師用指導書」「初級で読めるトピック25」「場面から学ぶ介護の日本語」等共著多数。

研修会は県外からの参加者も含め38名で始まりました。会場内は日本語支援や指導に取り組む人たちの「中級」研修に対する期待に包まれていました。牧野先生は『みんなの日本語中級Ⅰ』の執筆者の一人として苦心されたところや本にかけた思いを、また「中級とは」どのような位置づけであるかということを熱心に話してくださいました。

先生のお話から『みんなの日本語中級Ⅰ』の重要な視点は「初級から中級への橋渡し」「会話と読み物の2つの活動を柱としたテキストの持つ柔軟性」「学習した知識の総合的な応用力を高める」の三点だと分かりました。

「初級から中級への橋渡し」

初級を終えた学習者が本格的に中級に入るための導入として中級Ⅰは位置づけられています。初級を終えた学習者の弱点を見つけだし、その弱点を補い本格的な中級の学習へ導くことが必要となります。そのつなぎとしての役割を果たしています。

「会話と読み物の2つの活動を柱としたテキストの持つ柔軟性」

学習者によって日本語のレベルや弱点は様々ですが、ニーズに応じて柔軟に多方面からアプローチすることができます。テキストでは「話す 聞く(会話)」「読む 書く(読み物)」の2つの活動を軸にどちらからでも取り組むことができ、文法練習や問題を織り交ぜることでより深い習得を目指しています。また会話と読み物はほどよくマッチングされ「考える会話」に近づくことができるように工夫されています。

「学習した知識の総合的な応用力を高める」

中級後期が最終的に目指すものは自立的に日本語を使うことにあります。そのために自分の頭で考え、言葉を探し、様々な形のコミュニケーションを自分でできるような応用力を身につけることが必要です。また、中級後期につながる語彙、文法を学ぶとともに、与えられたものを学習するのではなく自ら学習に取り組み、予習の重要性を認識し時には学習者同士が助け合って学習するという意識を高めていくように考えられています。

牧野先生は以上のポイントを押さえながら第1課で具体的に模擬授業を展開してくださいました。参加者は学習者となって、ペアワークをしたり、先生の質問に答えたりして、テキストの内容を楽しく有意義に体験することができました。

先生は最後に「中級を学ぶということは、自立した人間として社会生活を送るのに必要な日本語を習得することであり、言葉を学ぶことはその国の文化等の基本的な背景を学ぶと同時に、自国のことも含め、様々なことを相対化する視点を獲得するということです」と言われました。私たち日本語指導や支援に関わる者にとってたいへん励みになり、また考えさせられる言葉でした。先生の長年の指導経験を踏まえた具体的で分かりやすい研修は今後の活動に大いに役立つことができると確信しました。

研修会を終えて

アンケートによると参加者の中で中級指導をしたことのある人が半数ほどいました。

研修会の感想を聞いた項目では、「具体的で分かりやすかった」「今後の指導に役立てたい」「中級指導に興味

が持てた」等の感想があり、研修会が有益であったことがわかりました。また中級レベルの指導で難しいと思われる点を聞いた項目では「初級から中級へのつなぎ方」「レベルの違う学習者への対応」等、多数あがっていましたが、今回の研修で参考になることが多かったのではないかと思います。

(杜 美智)

「ドイツでの青少年への支援活動」を聞いて

— 大坂庄司さん(JTM 会員)の報告 —

日時●2012年2月11日(土)13:30~16:00
場所●徳島県国際交流プラザ(トピア)大会議室

大坂庄司さんは中学の美術教師であり、JTMのメンバーでもある。さらに児童福祉司として「徳島県中央こども女性相談センター」で働いている。南米パラグアイの日本人学校で3年間働いたこともある。

今回は文部科学省の委託を受けて実施している独立行政国立青少年教育振興機構主催の「日独青少年指導者セミナー」参加のため、ドイツへ。その関心の中心は「青少年教育」特に「困難を抱える青少年への支援」だった。

ドイツは、連邦制になっており、それぞれの連邦によって教育制度なども異なっている。今回の訪問先はベルリンとミュンヘン。12泊13日の旅で大坂さんが一番感じたのは、日本との相違であった。

ドイツの若者は、午前中に授業を済ませた後、ユースセンターなどに行き、何かやりたい活動をする場合、その企画段階から参画し、何事も話し合っ決めて。そのせいか、不登校の若者もいきいきしているらしい。プロの社会教育の指導員がいて、いろいろな団体がやはり話し合いながら共同し、社会全体で若者を見ているのだ。日本とは大きな違いがある。団体間のネットワークがよくできているのだ。



また、トルコなどからの移民の数も多く、この点も日本とは違う。移民の子どもが学校に行かないケースもある。小学校ぐらいから進路が枝分かれしているドイツ社会。後から変更もできるのだが、中・高校まで同じような進路を多数の人が進む日本とは違い、複線型のシステムである。大坂さんの報告を聞いて、日本のシステムとの違いと、若者へのよりよい支援は何だろうかと考えさせられた。

日本では戦後、複線型から単線型に変えてきた。それから70年近くの間には「落ちこぼれ」や「ニート」なども話題になり、「家族」や「ご近所」の姿も激変した。若者たち自身の価値観も変化した。現在、そうした変化も含めてどう考えるかが問われている。(森井 哲也)



「紀元前後の遺跡ティオティワカン」

「キスのカルチャーショック」

メキシコ中央部サンルイス・ポトシ市の自治大学で日本語を教え始めてから早や半年。私がスペイン語ができないので、授業は英語。私の英語力では悪戦苦闘の日々ですが、なんとかやっています。学生たちはみんな熱心で、日本のハイテクやサブカルチャーに関心を持っています。

生活にはだいぶ慣れてきましたが、様々なカルチャーショックを受けています。その最たるものが、「抱きあつてのキス」。がいたるところで行なわれていることです。

路上で、公園で、広場で、バスの中でも、真っ昼間堂々と。これには未だに慣れることができません、思わず目をそむけてしまいます。目のやり場に困ってしまいます。

メキシコを300年にわたって植民地支配したスペイン文化、習俗の影響だといいます。

学生たちから、「日本では見られないんですか」とたずねられ、「ほとんどない」と答えたと、「へえー」と不思議そうな顔をしていました。

カルチャーショックと言えば、徳島にいる外国人も同様でしょう。日本語が不自由なうえ、カルチャーショックを受けて、そのストレスはかなりのものがあるにちがいない。

ですから日本語をどう教えるかとあいまって、日本の文化、伝統、習慣などをどうやって理解してもらうかも大切なことだと痛感しました。

この経験を徳島で生かしたいと思っています。8月下旬に帰国の予定です。またよろしくお願いします。

(会員 辻 暉夫)

大盛況だった『お国自慢とポットラックパーティー』

寒い日が続いていたが、比較的暖かかった3月25日(日)、ヒューマンわーくびあで「お国自慢とポットラックパーティー」が開かれた。参加者は子どもも入れて87名、大盛況だった。いろいろな国の珍しい料理や日本のお寿司などいただきながら、参加者全員が自己紹介をして、にぎやかにパーティーは始まった。







お国自慢は、国見さん(協力会員)の力強く、しかも優雅な日本舞踊で始まり、子ども達が「親子にほんご寺子屋」で描いた絵を切り抜き、それらを使ってした「だいこんとにんじんとごぼう」の朗読劇、トンガのマカさんと子どもさん3人によるウクレレと歌があり、その後多くの方が、ダンス、歌、三味線、横笛演奏など次々に披露してくれておいしい料理とともに大いに楽しんだ。また合間に、お抹茶コーナーで、おいしい「お茶とお菓子」もいただいた。

パーティーでは久しく会わなかった人、初対面の人、親しくしている人、皆それぞれに歓談しながら、最後に全員で踊った阿波踊りまで、あっという間に時間が過ぎ、別れを惜しみながら、明日の活力を得て会は終わった。会場には募金箱を置き、昨年の東日本大震災後、募金やリライト教材作成の協力等を続けている仙台市の「外国人の子どもサポートの会」への募金にも協力してもらった。

(山溝十糸子)



パーティーでのインタビュー

- 
 おいしいものをたくさん食べて、楽しいおしゃべりができて、久しぶりに友達に会うことができ、とても楽しかった。
 (中国 女性)
- 
 今日ここにいるいろいろな国の方が、日本語で一生懸命話していることにびっくりした。私も頑張りたい。世界はひとつだ。
 (トンガ 男性)
- 
 中国に帰った時、時々戸惑うことがある。食べ物の味とか習慣とか、多分日本の生活になじんできたからだと思う。
 (中国 女性)
- 
 いろいろな国の人の料理、文化、パフォーマンスが一つになりとても楽しかった。
 (フィリピン 女性)
- 
 劇は緊張したけどまあまあ…いや、よくできたと思う。来年はもっと練習して盛り上げたい。
 (フィリピン 中学生)
- 
 食事が素晴らしい。特にインドネシア、中国の料理がおいしかった。パフォーマンスもとても良かった。
 (アメリカ 男性)

日本語指導勉強会



介護の日本語講座



2011年度

教師グループ日本語研修会



親子にほんご寺子屋(子ども教室)



日本語サロン



親子にほんご寺子屋(親教室)



就職のための日本語講座



会報スマイル通信発行
毎月1回発行



JTMの活動の一年

他にもこんな活動をしています。

- 外国人技能実習生日本語指導 毎週日曜日
- A.L.Tのための日本語講座 毎週日曜日
- 徳島県主催「美馬市日本語教室」担当 毎週日曜日
- 徳島県委託「サマースクール」開催
- 「徳島県国際交流協会日本語教室」担当 毎週日曜日
- プライベートレッスン

INFORMATION

◆会員数(2012年4月8日現在) 正会員数62名 協会員数2名
 ◆入会随時受付中! 正会員…会の活動に参加し、ともに運営を行います。
 協会員・団体…会の活動を支援する個人または団体

活動紹介

ブラッシュアップのために

- ◇日本語指導勉強会
*毎月第2土曜日13:30~15:00
〈模擬授業と意見交換〉日本語に関心のある方ならどなたでも参加できます。
- ◇教師グループ研修会
*毎月第3金曜日または土曜日
- ◇定例会 ◇特別研修会

日本語学習をサポートする交流活動

- ◇日本語サロン
*毎週月曜日10:30~12:00
徳島県国際交流プラザ

「にほんご寺子屋」

- *毎週日曜日13:30~15:00
徳島県国際交流プラザ

就職のための日本語講座

- *5月15日(火)~7月13日(金)

介護の日本語講座

- *9月4日(火)~10月31日(水)
ヒューマンわーくびあ徳島
主催 (社)徳島県労働者福祉協議会

徳島県アパレル縫製工業組合日本語集合研修

- *9月21日(金)~10月18日(木) (2011年度)

日本語レッスン

- ◇プライベートレッスン・グループレッスン
入門から上級まで、会話や日本語試験対策などニーズにあった学習プランで教えます。
- ◇詳しくは事務局またはレッスン専用メール
jtmtokeu-lesson@mbk.nifty.com まで。

JTMとくしまのオリジナル教材紹介

Konnichiwa Tokushima

こんにちは とくしま

徳島で日本語を学ぶ人のために

本書は初級学習者向けの教材です。

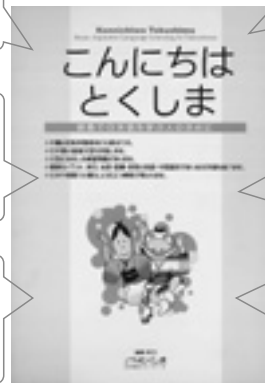
日本語の基礎文型を学習します。

文型に対応した練習問題があります。

イラストがたくさんあり、わかりやすいです。

日本や徳島の暮らしに役立つ情報が得られます。

会話と語彙、表現の英語・中国語訳があり、自習学習を助けます。



●ご購入、お問い合わせは…

- JTMとくしま事務局 または
- ✿ 紀伊国屋(そごう徳島店8F)
- ✿ 宮脇書店(クレメントプラザ4F)

ご支援をいただきました

- 公益財団法人徳島新聞社会文化事業団
徳島新聞社会文化助成金
 - 徳島中央ロータリークラブ
「就職のための日本語講座」および「介護の日本語講座」
eラーニングのためのタブレット3台
 - 徳島ロータリークラブ
「就職のための日本語講座」および「介護の日本語講座」
日本語テキストおよびビジネスマナーテキスト一式
 - 徳島プリンスロータリークラブ
「就職のための日本語講座」および「介護の日本語講座」
シャドーイングのための貸し出し用ヘッドホン15台
- 活動に対してご理解とご支援をいただいたことに感謝し、「誰もが社会とのつながりを感じられるようなチャレンジができる地域づくり」に取り組んでいきたいと思っております。

あ と が き

昨年度は、JTMにとって節目となる年だったと思います。今回、トップページの原稿を担当することになり、その年を振り返るよい機会をいただきました。

今年度は、さらなる飛躍の年となるでしょう。

読者のみなさんにも、次は誰からどんなメッセージが発信されるか、いっそうご期待いただきたいと思います。

(社 暁子)

発行/JTMとくしま日本語ネットワーク

発行責任者/兼松 文子

編集責任者/山崎十糸子

編集スタッフ/加村 匡子・村松 幸子・辻 暁子・安山 政子
長町 順子・玉置 房・杜 美智

印刷/徳島県教育印刷株

■JTMとくしま日本語ネットワーク

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1 わーくびあ徳島2階

(社)徳島県労働者福祉協議会内

TEL 088-625-8387 FAX 625-5113

E-mail jtmtokeu@nifty.com

URL http://homepage2.nifty.com/jtmtokeu/